

SSL証明とは？

もくじ

SSL証明とは？	3ページ
暗号による通信の仕方	8ページ
SSL証明の種類	12ページ
おまけ	14ページ

SSL証明とは？

- 相互の通信を暗号化し『なりすまし』『盗聴』『改ざん』を防ぐ手段です
- 暗号化方法は『共通鍵暗号方式』『公開鍵暗号方式』と『秘密鍵』を利用
- またそのセキュリティを証明する事をさします

登場人物



REO

東京に単身赴任中



嫁さん

福岡にいる



悪いくま

いわゆるハッカー



嫁そっくりさん

ハッカーが作ったニセ嫁



ドラえくま



こわいくま



泣き虫くま



くまくん

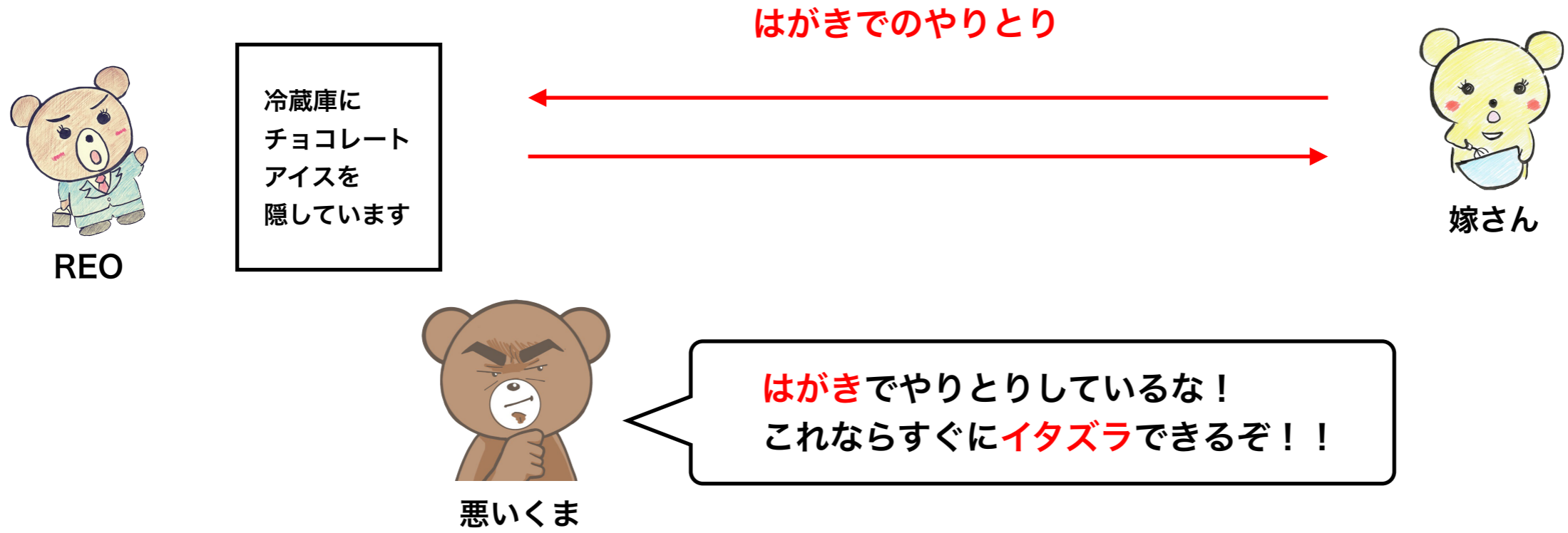


アラブくま

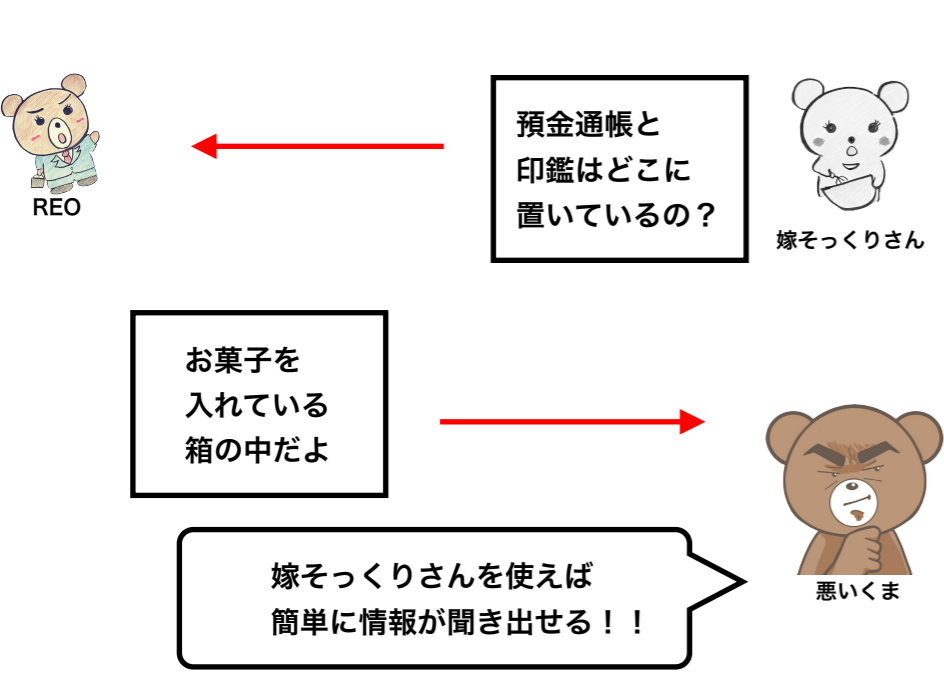


つよいくま

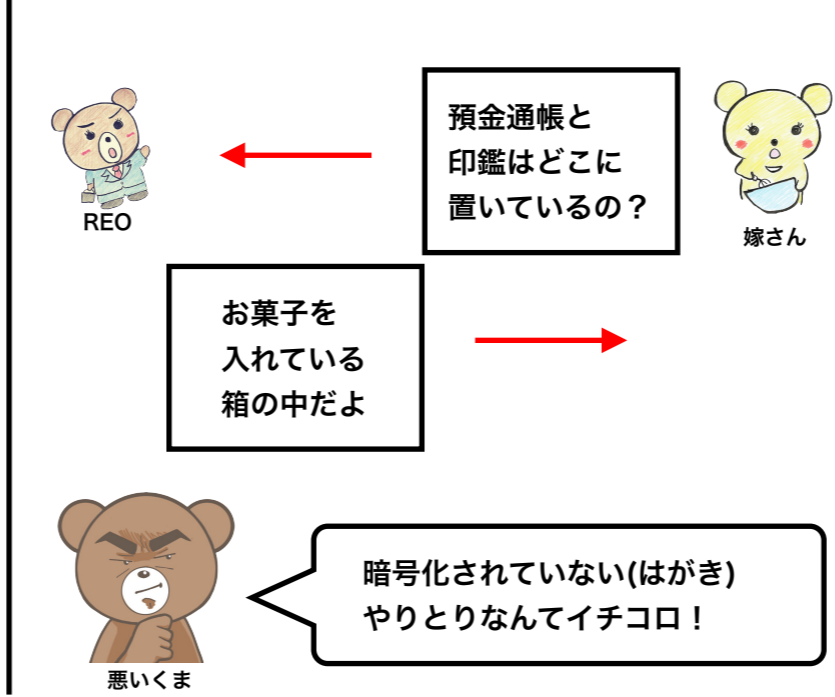
SSL化されていない通信のリスク



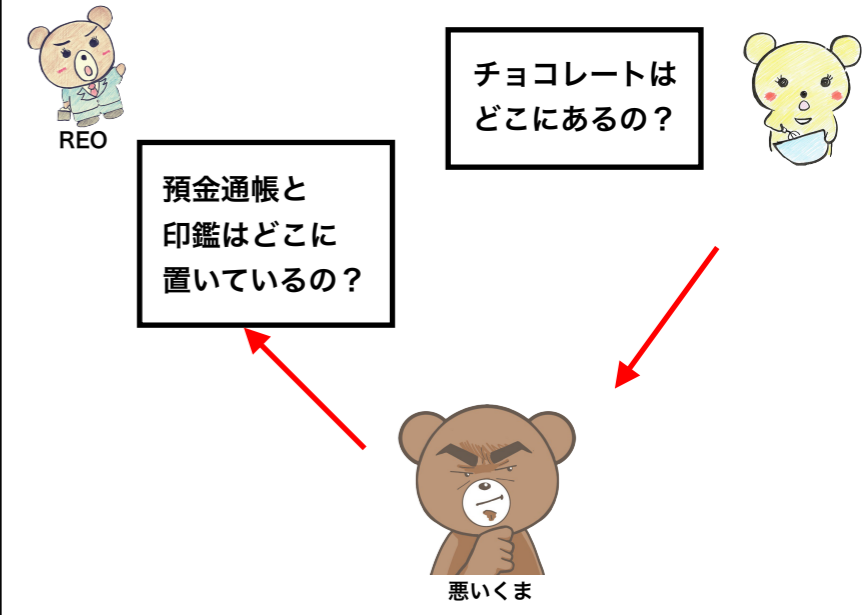
なりすまし



盗聴



改ざん



なりすまし

Amazonや楽天を装い 支払い口座の再登録を促す

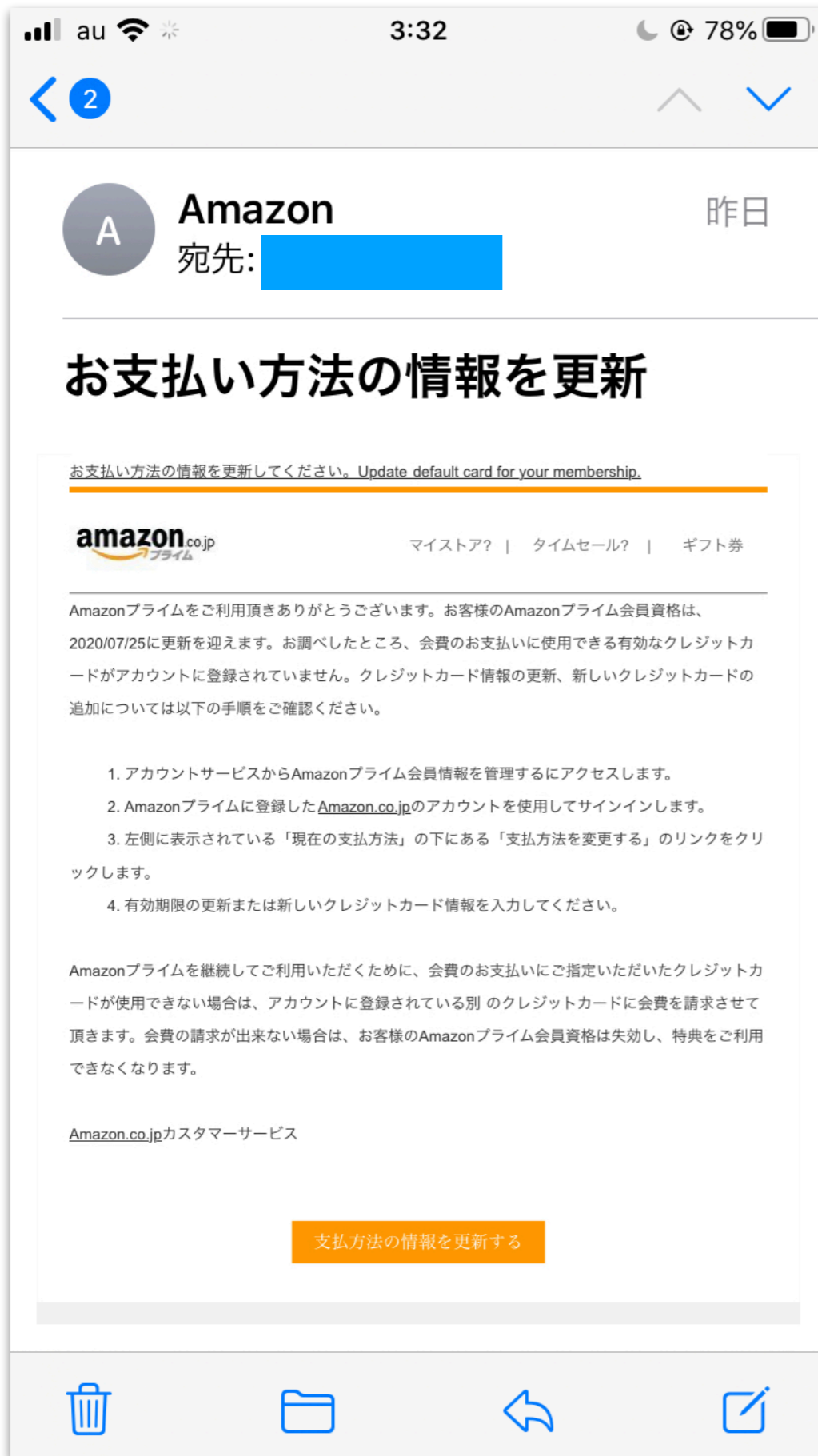


盗聴

例えばFree Wi-Fiに接続するとします。
利用するために、ID・パスワードを登録して利用します。
それは本当にFree Wi-Fiですか？
ハッカーが作ったテザリングだったら・・・
IDとパスワードを使い回ししていませんか？？

改ざん

上記2つでIDやパスワードが漏れてしまった場合
データの改ざんは容易です。
例えばAmazonにチョコレートを1ケース発注したのに
届いたのが100ケースだった・・・
改ざんされた可能性があります



サイト製作者(出品者)



*WEBサーバーは世界中の莫大な情報(無料や有料級)が格納されているデジタル版メルカリと思って下さい。そしてSSLはそれぞれの出品者が設定をします配送の仕方を『ハガキ』で行うか『宝箱』で行うか?です。そしてこのやりとりが高速で行われています

チョコレートの作り方を知りたい

チョコレートの作り方レシピ

強くなる方法を知りたい

強くなる方法



クライアント(購入者)

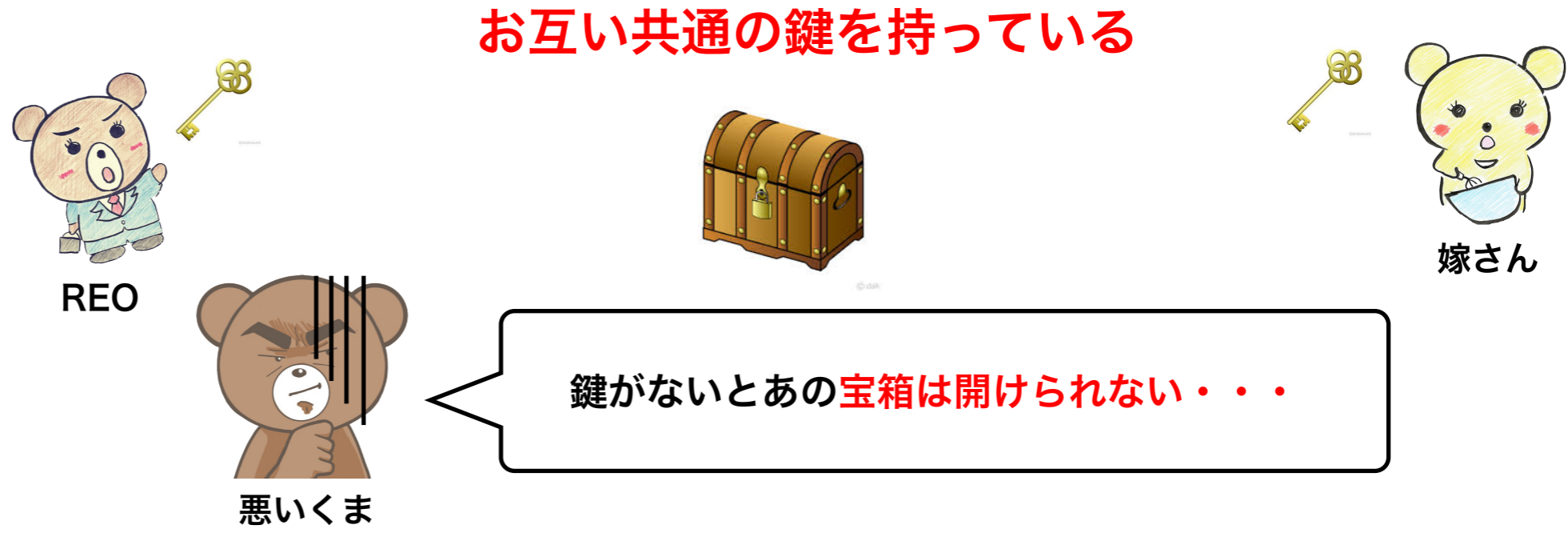


暗号化による通信の仕方

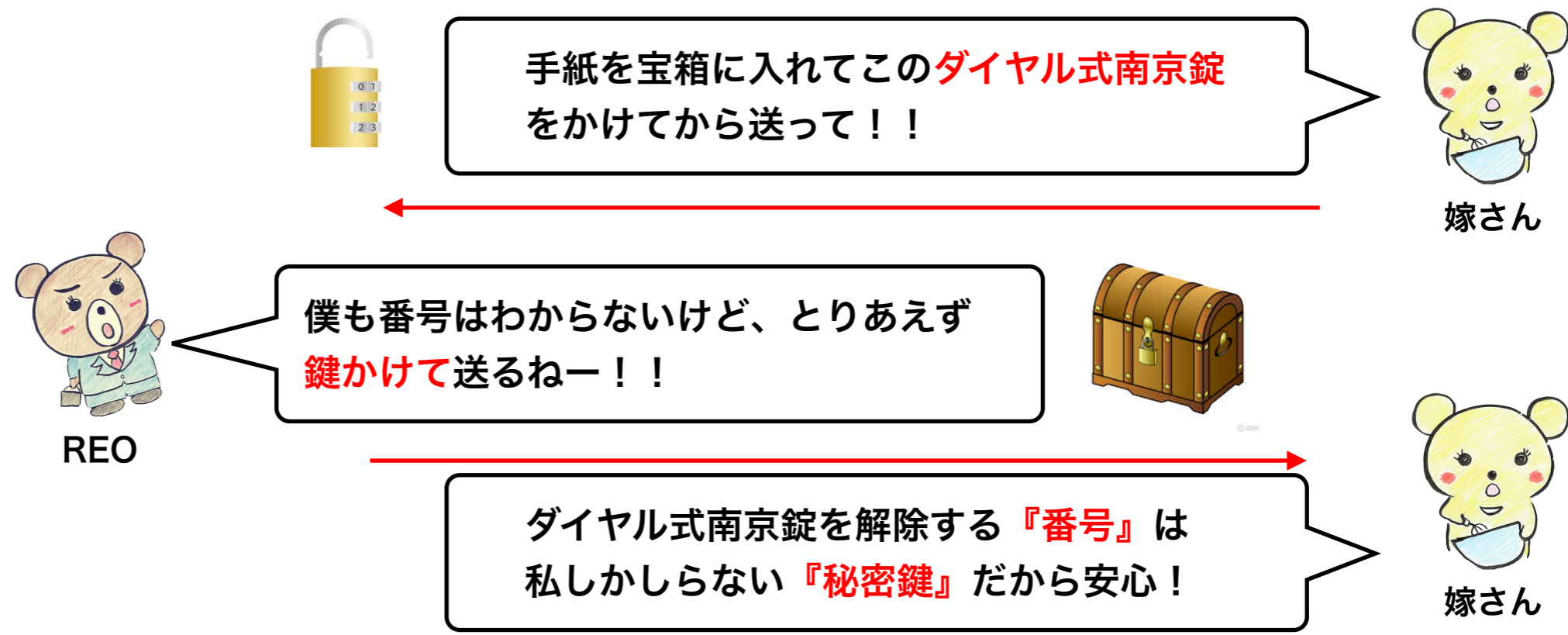
『共通鍵暗号方式』と『公開鍵暗号方式』 『秘密鍵』を使った通信方法です

暗号による通信

共通鍵暗号方式



公開鍵暗号方式



サイト製作者(出品者)



REO



WEBサーバー
(メルカリ)

盗み見ができない
ハッカー(泥棒)



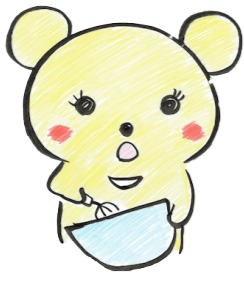
悪いくま

チョコレートの
作り方を知りた
い

強くなる方法が
知りたい
この鍵をかけて
宝箱に入れて
送って!

強くなる方法

クライアント(購入者)



嫁さん



ドラえくま



こわいくま



泣き虫くま



くまくん



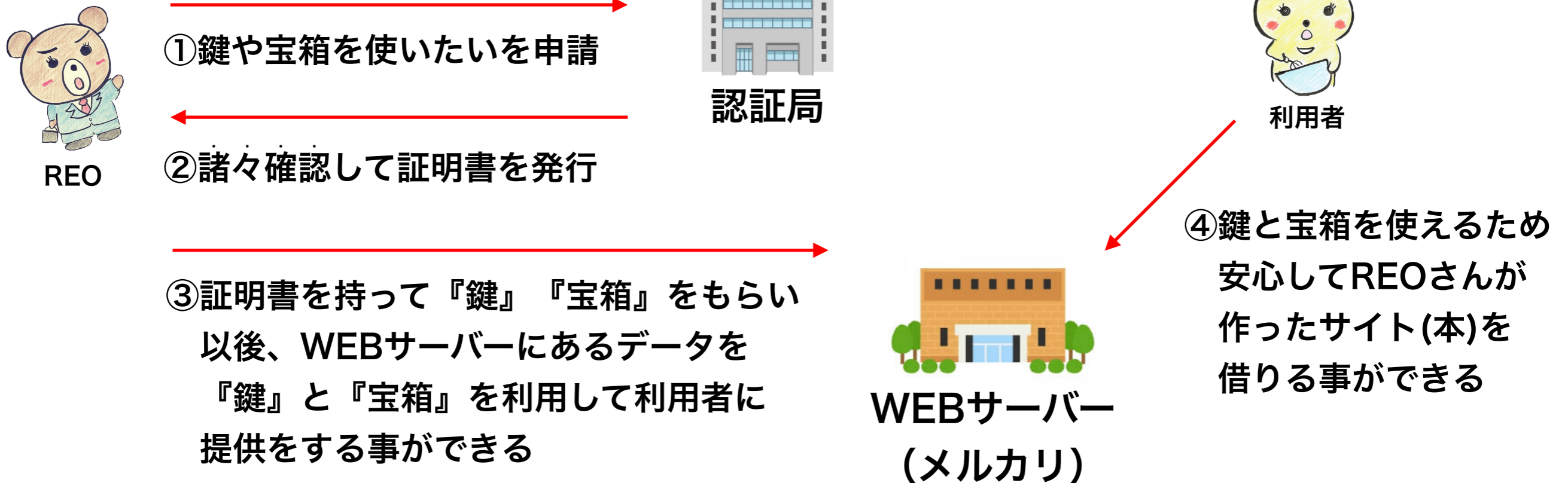
アラブくま



つよいくま

SSL化をするという事は『暗号化する為の』『鍵』や『宝箱』を使える様になる事と思って下さい

『鍵』や『宝箱』を提供してくれるのが『WEBサーバー』ですが、
そのWEBサーバーに『認証局』から発行された『証明書』を提出する事で
『WEBサーバー』は『鍵』と『宝箱』を提供してくれます



SSLの種類

- **ドメイン認証**
- **企業実在認証**
- **EV認証**

の3種類によってSSLは段階的に証明されています

ドメイン認証 DV認証

無料～約3万円(年払い)

そのドメインをちゃんと契約して利用しているか？(WHO IS情報)を確認して認証されます。

ドメインの契約書をもとに発行されるので、個人事業主での容易に取得

有料と無料がありますが、違いは『サポートの有無』のみです

企業実在認証 OV認証

約6万円(年払い)

そのドメインをちゃんと契約して利用しているか？(WHO IS情報)を確認して認証されます。

また帝国データバンクなどを活用し『実在する会社』どうかの実態を把握します

EV認証

約12万円(年払い)

上記に加え、登記簿等を確認します。

また、アドレスバーが緑色になりますので、
大手ECサイト・銀行・証券会社などが採用しています

楽天などはEV認証です！

EV認証だとアドレス自体が緑色で表記されたりしますので、偽物が本物か判断しやすいと思います！(ブラウザによっては色が変わりません)

***金額はGMOを参照**

おまけ

SSLとTSLの違いは？

偽サイトにアクセスしようとしています・・・

この接続ではプライバシーが保護されていません

SSLとTLSの違いは

SSL(セキュア・ソケット・レイヤー)

TLS(トランスポート・レイヤー・セキュリティ)

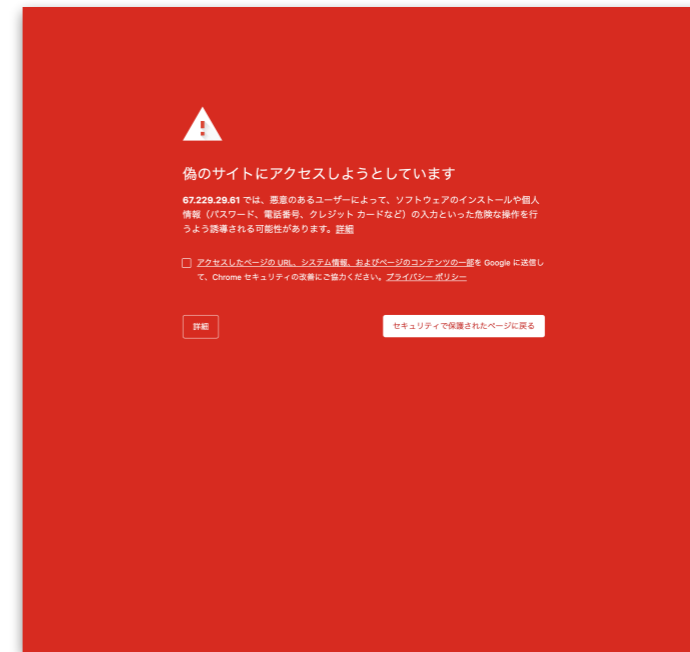
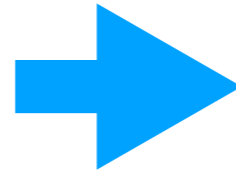
これは一緒です。もともと一つの企業がSSLを取り組み始め、脆弱性が発見されてきたため、第三者期間がSSLの研究を始めました。それからTLSと呼ばれるようになっただけです。要はSSLの次世代型がTLSなのです。

ただ、昔の名残でSSLと今でも呼ばれています

偽サイトにアクセス



アクセスすると・・・



これはGoogle Chromeを利用すると上記の様に教えてくれます。

これはGoogleがフィッシングサイトと認識しているので上記の様な表示なのです

間違っって偽サイトにアクセスしようとしても一応上記のように教えてくれるので安心ですが、自分自身もウィルス対策やちょっとした知識をいれる勉強はしましょう！

保護されていない通信



SSL化されていないサイトは左記の様な警告が表示されます

この場合でも詳細設定からサイトを閲覧する事は可能ですが、ちょっと嫌ですね

ⓘ 保護されていない通信

jpdirect.jp

⚠ 保護されていない通信

jpdirect.jp

また、SSLが十分でない場合はアドレスバーが左記の様になります。

🔒 schoolreo.com

左記の様に南京錠のマークが出れば問題ありません！



サイトの信頼はこういうところが大事です！
『被害者』にならない『加害者』にもならない！しっかり意識しましょう！